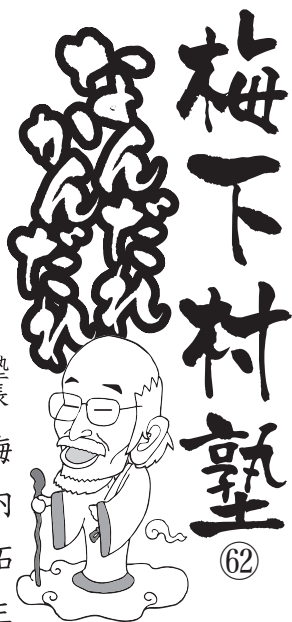


「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～

大船渡津波 伝承館構想
(地震津波共生共存文化の構築)
大船渡津波伝承館計画が株式会社さいとう製菓(鴎の玉子)の齊藤賢治専務を中心に進められております。昨年来、数回、東京での会議に出席しました。私は東海新報連載の地域文化教育コラムである「梅下村塾」の立場から意見を述べております。例えば、「世界をつなぐ津波対応地域文化教育センター」を指すという提案をして、①3・11東日本大震災津波と災害の記憶②震災津波への警戒と避難と共存の地域文化教育の育成 ● 津波の記憶を地域の中でどのようにつたえてい

き、教育していくか(記憶は忘れてしまうものであることから、後世にいかにつたえていくのかをテーマとする)
③世界の他地域との震災対応への文化教育の交流と地域文化価値の共有 ● 地球環境が大きく変化する中で今ある環境とともに生きるといのは全世界で考えるべきことであり、地域生活のなかにどのように環境変化を取りこんで行くのかを世界に伝えていく(そのためにワークショップを開催し、世界津波会議を開催することを目指す)。要は、自然現象である地震と津波と共生共存していく知恵と価値を過去から学び、現在に生かし、そして未来に伝えていく



塾長 梅内拓生

ことを目指すことで

大津波 季節はめぐり
梅一輪 仮設の庭に
春を呼びけり

(詠み人知らず)
瓦礫原 屋台の灯り
海の風 日々の暮らして
汗は流れる

(詠み人知らず)
風吹けば 砂漠を襲う
砂嵐 命を削り アフ
リカ仕事

(詠み人知らず)

1月22日(火)の世迷言は「対立する価値観の双方を丸く収めることがいかに至難か、その立場を最も痛感するのは政治家だろう。円高に怨嗟の上がっているのにいざ円安に振れると今度は逆の声が上がりだしたからだ。

と考えるのではなく、どちらかが儲かるとプラス思考すれば、その大騒ぎする必要もあるまい」。まさに、「ごもつともなごである。しかし、これも兄弟としての信頼と協力関係がうまくいっている場合に、初めてプラス思考が成り立つのである。要は、信頼関係の問題である。1月20日(日)の世迷言では鳩山元首相の中国訪問での言動を取り上げている。日本国の元首相としての余りにも軽率な言動の繰り返しに呆れかえっている。このような政治家を選んだ日本の、マスコミも、国民も、そして政治家も官僚も厳しく反省をしなければならぬ。

：一般庶民には例えば輸入原料を安く入手できる円高の方がプラスになる。しかし円安となつて貿易高が増え、それが経済を潤すならそちらのメリットも大きいはず。つまり二人の息子が傘屋と下駄やだったなら、雨にしろ風にしろどちらかが困る

地球環境、政治、経済、文化の厳しいせめぎ合いの中から二十一世紀文明が、お互いの価値を認め合い、共生の価値を育て、コミュニケーションし、共有することを目指した理念とシステムの構築に大船渡津波伝承館がつながることを願っている。